
基礎看護実習Ⅱ

水 田 真由美 教授
岩 根 直 美 准教授
坂 本 由希子 准教授
野々口 陽 子 助教
米 島 望 助教

2年次（前期）

【概要・目標】

基礎看護実習Ⅱは、保健看護学の専門領域すべての実習においての基盤となり、これから学ぶ専門領域に発展可能な知識・技術を学ぶ。この実習では、健康に障害のある患者を受け持ち、患者の全体像を捉え、個別性を理解する。さらに、看護問題の抽出を行い、アセスメントを学び、看護過程を展開するための基礎的能力を養う。また、既習の看護技術を患者との相互関係を通して統合し、日常生活援助を中心に基礎的な技術を習得する。

- 目標
- 1) 看護の対象者の理解ができる。
 - 2) 人間関係形成を通して対象者のニーズを把握することができる。
 - 3) 科学的な思考に基づいたアセスメントを行い、看護上の問題を見出すことができる。
 - 4) 対象者のニーズを満たすために、日常生活における基本的な看護援助ができる。
 - 5) 実施した看護を振り返り、記録ができる。
 - 6) 看護チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動ができる。
 - 7) 看護実践を通して、自らの課題を見出し、主体的な学習ができる。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 実習は、集中で行う。
時期：9月の2週間
施設：和歌山県立医科大学附属病院
- 2) 実習の前にはオリエンテーションを実施する。
- 3) 実習終了後にまとめを行う。

【評価】

実習目標（評価表）に沿って、参加状況・実習記録・レポートを総合して評価する。

【教科書】

なし

【推薦参考図書】

適宜紹介

【その他】

2 年次（前期）

【目的・目標】

地域で暮らす各発達段階の人々の生活にふれ、健康な生活を守るための保健管理や生活環境のあり方について学ぶ。

- 1) 地域で生活する母子の健康生活への環境づくりについて学ぶ
- 2) 保育園で生活する子どもとの生活体験を通じて、子どもの成長発達状況や生活の場を知り、成長・発達に応じた援助方法を修得する。
- 3) 労働環境を見学し、成人期にある働く人々の健康な生活支援のあり方について考える。

【実習方法】

- 1) 実習期間：前期 1 週間
- 2) 実習場所：指定された施設より選択する。
- 3) 方法：実習要項に掲載した実習計画に基づいて行う。

【実習評価】

出席状況（60%）、参加状況（10%）、事前学習課題および事後レポート（40%）

【履修に際しての条件・注意事項】

- ・実習に関する詳細は、実習前オリエンテーションで説明する。
- ・今後の学習の基盤となる貴重な体験となるので、積極的な学習姿勢が必要とされる。